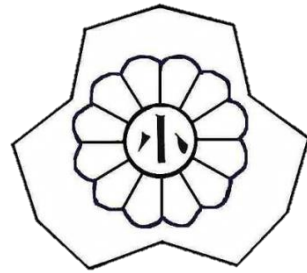


家庭学習の手引き

～ 自ら学び考える子をめざして～



木津川市立高の原小学校

家庭を「学び」の環境に

- 1 基本的な生活習慣を身に付けましょう**
早寝早起き、朝ごはん、朝の排便を習慣化しましょう
- 2 家庭の学習環境を整えましょう**
決まった場所で一定の時間、テレビを消して学習に集中しましょう
- 3 学習習慣の定着をめざしましょう**
基本的な学習習慣や自学自習の習慣を身に付けましょう
- 4 ファミリー読書の時間をもうけましょう**
家族で静かに本を読む時間をつくりましょう

令和3年度から、今後の10年間を見据えた新しい京都府の教育を進めていくための指針、第2期「京都府教育振興プラン」がスタートしました。この中で、はぐくみたい力を『主体的に考える力』『多様な人とつながる力』『新たな価値を生み出す力』の3つとしています。

子ども達には、学ぶことを通して、見つけたり調べたり工夫したりする勉強の面白さを実感し、主体的に考え行動できる力や、失敗しても再び挑戦できる強い心を身に付けてほしいと願っています。子ども達のがんばろうという原動力は、自己肯定感と達成感です。

自ら学ぶ習慣はとても大切です。家庭学習を通して、子どもたちが学ぶ楽しさや達成感を味わい、学びに向かう姿勢が身に付くよう支援していきましょう。

1 家庭学習の手引きについて

(1) まずは、基本的な生活習慣を見直しましょう

全国学力学習状況調査をはじめさまざまな調査において、朝食をとらない児童の学習定着率が低いという結果が出ています。毎日の生活で、早寝早起き、朝ごはん(規則正しい)、朝の排便などの基本的な生活習慣を確実に身に付け、1日の生活のリズムを身に付けることが子どもにとってとても大切です。生活リズムを整え、早寝早起きを心がけることにより、起床してから余裕を持って朝ごはん、排便、登校の準備ができるようにしましょう。



(2) 学力を定着させるために、家庭の学習環境を整えましょう

基礎学力を定着させ、「学ぶ力」を育てるためには学校での授業だけでなく、家庭での学習習慣が大きな役割を果たします。学校で子どもたちの主体的な学びを育て、学び方を身に付けさせると同時に、家庭では子どもたちの基本的な生活習慣を確立し、決まった場所で一定の時間、学習に集中して取り組むことが重要です。学習をする時はテレビを消して、学習する場の整理整頓をするなど集中できる環境を整えることが必要です。毎日の生活習慣を見直し、勉強をする場所や時間、テレビやゲームをする時間などを決めましょう。また、読書をする時間を決めて、毎日音読だけでなく静かに本を読む習慣も身に付けましょう。



(3) 家庭での学習環境の定着に向けて、家庭で話し合しましょう

「自ら進んで学ぶ子どもたち」を育てるために、子どもたちが一番安心して生活できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日継続して学習に取り組むことはとても大切なことです。低学年では宿題などをやりきらせるなど基本的な学習習慣を身に付けさせ、与えられる宿題だけではなく、授業の予習や復習、自主勉強などの自学自習(指示されなくても自ら学習する)の習慣を身に付けることを目指しましょう。



家庭での学習習慣の定着をめざして家庭生活、家庭教育を見直し、各家庭の状況に合わせた方法を親子で考え話し合う参考資料として「**家庭学習の手引き**」を作成しました。

「**家庭学習の手引き**」では、「**ホップ**」小学校低学年（1・2年生）、「**ステップ**」中学年（3・4年生）、「**ジャンプ**」高学年（5・6年生）に分けて、学年に応じた家庭学習の在り方を具体的に示してあります。各家庭で、家庭の状況や子どもの実態に合わせて、家族で話し合いながら家庭学習の進め方に活用していただければと思います。

高の原小学校 家庭学習時間の目安
1・2年生 40分 3・4年生 60分 5・6年生 80分

子どもにとって、興味・関心のある内容、やりがいのある問題に取り組んでいる場合は、それ以上になることもあります。また、休日や長期休業中（夏休みや冬休み）など自由に使うことのできる時間がたくさんある場合は、さらに30分～60分程度増やせるとよいでしょう。

2 家庭学習を通して育てたい児童の姿

- 家庭での生活時間を有効に使うことができる児童
（勉強や読書・手伝いに使う時間が、テレビやゲームに費やす時間より多い児童）
- 家庭学習の習慣や方法を身につけた児童
- 基礎的・基本的な学習内容を身につけた児童
- 自ら進んで学ぼうとする意欲をもった児童

3 基礎的・基本的な学習内容とは

主として学校で学習する内容（教科書に記載されている内容）です。

特に、読み・書き・計算の技能は、各学年間でつながりをもっていますから、それぞれの学年で確実に身に付けておくことが望ましいと言えます。

- 教科書に出ているような文章をすらすら読むこと
- 教科書に出てくる漢字を読んだり書いたりすること
- 教科書に出ているような算数の問題を解くこと

4 家庭学習の習慣づけのために

(1) 習慣化のためのポイント

- 学習する時間を決めて、毎日、同じ時間・場所で
- テレビを消して集中力アップ!
- 中学年以上の子どもは、学習後に自分で「答え合わせ」を

家での声かけを大切に・・

- ・ 子どもが、学習していることに関心を持ち、はげましてあげてください。
- ・ 子どもが、たずねてきたらできる範囲で結構ですので答えてあげてください。
- ・ 子どもが、頑張った成果(ノートやプリント等)に目を通して、努力を認めてあげてください。

答え合わせで確実な理解へ

子どもたちにとって答え合わせは、ただ「正解・不正解」を確かめるだけの活動ではなく、学習内容の理解に関わる大切なものです。

「不正解」だった問題については、「どこが違っているのか」「どうして違ってしまったのか」をていねいに振り返ることにより、『自分の理解度』を把握し、『弱いところを補強(再考する・練習をする)』をすることによって『確かな定着』へとつながっていきます。この過程をきちんと実行できれば、『間違えたことが、より確実に理解することにつながる』と言えます。

(2) 学年の発達段階による家庭学習のポイント

ア 低学年

○ 基本的な学習習慣を身に付ける

低学年は、学習の基本をしっかり身に付けるときです。授業では、「読み、書き、計算」などの基礎的な内容を学習します。

「早寝早起き」「規則正しい食事」「朝の排便」など、基本的な生活習慣を身に付けることが、学習習慣の定着に欠かせません。家庭では学校での学習を受け、学習内容や方法を決め、できたことをほめることによって興味・関心を引き出し、意欲を高めることができます。

この時期は生活と結び付いた学習が多く、実際に体験して学力を付けていきます。また、繰り返し練習することがとても大切です。

そのために、まず家庭では

- (ア) 基本的な生活習慣を身に付けさせてください。
- (イ) テレビなどを消し、集中できる場所で落ち着いて学習させてください。
- (ウ) 宿題や持ち物の点検をしてください。
- (エ) 学校からのおたよりなどをきちんと手渡す習慣を付けてください。
- (オ) 温かい言葉をかけて励ましてください。
- (カ) 地域の行事や、自然に触れる体験をさせてください。

イ 中学年

○ 自主的な学習習慣を身に付ける

中学年になると、「できることは自分で」「家庭学習は計画的に」というように、自分でコントロールできるようになってきます。

ですから、この時期は、生活のリズムを付け、計画的に進んで学習に取り組む態度を育てるときです。

そのために、まず家庭では

- (ア) まず、基本的な生活習慣を身に付けさせてください。
- (イ) テレビなどを消し、集中できる場所で落ち着いて学習させてください。
- (ウ) 宿題や持ち物の点検をしてください。
- (エ) 学校からのおたよりなどをきちんと手渡す習慣を付けてください。
- (オ) 温かい言葉をかけて励ましてください。
- (カ) 地域の行事や、自然に触れる体験をさせてください。

ウ 高学年

○ 自学自習の習慣を身に付ける

高学年になると、学習内容が多くなり、自分で課題を決め、調べ、工夫してまとめる学習活動も行います。

そのためには、筋道を立てて考える力や今まで学習してきたことを活用する力、考察する力が必要になります。

そして、自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを経験することで、いろいろなものの見方や考え方を身に付けていきます。

そのために、まず家庭では

- (ア) 学習する場所を決め、整理整頓し、テレビなどを消して、時間内は集中して学習させてください。
- (イ) 計画を立て、見通しをもって学習が進められるようにしてください。
- (ウ) 確かな学力を付けるために、毎日コツコツと継続して学習させてください。
- (エ) ほめたり、励ましたりして、「やればできる」という自信をもたせてください。
- (オ) 学習した内容を生活の中で実践したり、活かしたりできるよう声をかけ、自ら考え実践する力を育ててください。
- (カ) 家族の一員としての役割を自覚させ、仕事を分担させることも大切です。

(3) 読書活動について

子どもにとって読書活動は、言葉を大切にし、感性を磨き、心豊かに生きる力を身に付ける機会となります。読書活動によって培われた豊かな想像力とことばの力は、学力の基盤となる「考える力」や「感じる力」、「想像する力」、「表現する力」を高める重要な要素となります。ぜひ、次のような家庭読書を実践してみてください。

- ・ 週末に保護者もいっしょに読書（読み聞かせ）をする時間を設ける。
- ・ 保護者も読書量の目標値（月の冊数）を設定する。
- ・ 本に親しむ環境づくりの一環として、ノーテレビタイムを設ける。
- ・ 家庭学習の中に、音読や（子どもからの）読み聞かせの時間を設ける。

